

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200499		
法人名	社会福祉法人 陽光会		
事業所名	グループホーム サンパティオ		
所在地	千葉県松戸市旭町二丁目271番地の2		
自己評価作成日	令和 3年 12月 25日	評価結果市町村受理日	令和 4年 2月 25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	enshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター
所在地	千葉県松戸市栗山542-2
訪問調査日	令和3年1月14日リモート利用

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「その人らしく、ゆったりと、心地よい生活」を送って頂けるよう、スタッフで日々話し合い、ご自宅のように安心してくつろげるようなサービスを提供しています。日常の中で掃除や洗濯、食事等出来る事は職員と一緒に、それぞれのご居様に「役割」を持っていただくことで、「個別ケア」に力を入れています。また、コロナの影響で外出が難しい状況ですが室内でも四季折々の行事を取り入れ、外気浴なども行っております。アロマタッチも心と体のケアに取り入れてます。

ボランティアさんや園児交流等は現在も継続し地域との交流を活かし近隣の方々とのつながりを深めています。職員の数も人員基準より厚めに配置出来ており、職員、地域とのつながり、認知症であっても住み慣れた地域で家庭のような生活を継続できるような環境づくりを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念である「その人らしく、ゆったりと、心地よい生活」を提供するため、施設内には利用者が気の向くまま、人目を気にせず、ソファーに座り、テレビや窓からの眺望を楽しめる場所を設けています。また、スタッフは日常の支援で、利用者に寄り添い、常に笑顔で接し、生活の安心を与えることができています。地域との交流は施設から近隣の幼稚園への声掛けで始まり、毎月、利用者や園児との交流を行ってきました。コロナ禍の現在は直接の交流はできませんが、利用者や園児それぞれ、お互いが楽しめる手作りのプレゼントを交換し、関係を維持しています。その他にも近隣中学や町会など地域の一員としてのつながりを保つ活動を心がけ、実行しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に運営理念を掲示し職員間で確認している。また、会議や内部研修が難しい為介護リーダーが研修資料を通し理念の意味、役割について伝え共有し実践している。	理念は研修と日常の活動の中で職員に共有され、実行されています。理念の掲示はキッチン横の予定表と同じ場所があり、日常的に職員が目にする事ができるようにしています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 令和 3年 12月 25日	コロナ禍で直接の交流は難しいが幼稚園や中学校に、雑巾や手作りのおもちゃをプレゼントしている。お返しに子供たちの手作りの作品を頂いてお互いの交流を継続している。	地域との交流は施設からの呼びかけで近隣の幼稚園の園児との交流が始まり、コロナ禍以前は毎月行っていました。現在は直接の交流ができず、手作りプレゼント交換での交流となっています。また、中学校には手作りぞうきんを送り、地域とのつながりを保っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で地域の方々や、ご家族に日常の活動報告を行い、広報誌を掲示し、ご家族や来訪された方へも活動に対してご理解を頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	規定通り2か月に1回書面にて開催している。会議では活動報告に加え、事故報告や研修等の報告も行っている。出席者は他の地域密着型サービスやご家族、町会長、包括の職員等おり、ご意見をサービスの向上に活かしている。	運営推進会議はコロナ感染対策のため、2か月に1回、書面で実施しています。会議議事録を作成して会議メンバーから得た各意見を記載し、利用者代表、家族代表、民生委員、包括支援センター、地域町会会長、福祉サービス施設代表に配布しています。	
5	(4)	○市町村との連携 令和3年1月14日リモート利用	高齢者支援課担当者と適宜電話で実情の相談・確認等を行い、良好な連携を気付いている。	コロナ禍のため、市の関係部署とは主に電話でのやり取りです。必要に応じて包括支援センターには訪問もしています。また、松戸市とは介護福祉実習生を当施設で受け入れるなど協力関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は安全配慮義務・防犯のため夜間は施錠しているが、日中はボタン一つで外に出れる状態。身体拘束に関する委員会を設置し、検討、職員へ身体拘束ゼロの手引きなど活用し周知を行っている。また、マニュアルを作成しいつでも閲覧できるように備え置いている。	施設では身体拘束廃止・高齢者虐待防止委員会の委員長が座長を務め、身体拘束等について、職員への教育と周知を行っています。マニュアルは事務所タイムカード横で全職員が閲覧可能な場所に設置しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関する委員会を設置し、検討、スタッフへの周知を行っている。また、マニュアルの作成し閲覧できるように備え置くだけでなく、外部の研修に参加し、各スタッフへ周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	誰でも閲覧できるように入口に資料を設置し、必要に応じて、ご入居者様、ご家族様にご説明できる体制を整えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書・個人情報同意書等契約書類を丁寧に説明し、署名・捺印を頂き契約を締結している。また、アセスメント、ケアプラン説明などを通し安心してご利用頂けるよう生活上の不安や疑問点を不安を解消している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にてご家族様や、ご利用者様の意見要望等伺っている。また、ご意見箱を設置し匿名でも意見を頂戴し、検討・反映できるよう苦情相談窓口も設置している。また、松戸市の介護相談員に聞き取りして頂いている。	家族や利用者の意見や要望は意見箱の設置と運営会議において受けることができます。苦情箱は意見箱として事務所カウンターに置いています。玄関には「利用者からの苦情を処理するために講ずる措置の概要」を掲示し来所者が閲覧し周知できるようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回必ずカンファレンスを行い、全体会議等で意見交換ができるような環境を作っている。また、人事考課時や適宜、責任者が職員一人一人面談を行い意見、要望を伝えられよう環境づくりを心掛けている。	管理者は毎月のフロア単位のカンファレンスや全体会議で職員の意見や提案を聞き反映しています。例えば職員からお花の先生だった利用者のために生花を飾りたいとの提案があり、実践した結果、所内で花を育て季節ごとに手入れし飾る一貫したケアにつなげる事ができました。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度にて、適正な評価がなされるよう、人事考課評価面談にて、本人と話す機会を設けている。また、その際、自己評価に対する再確認、ステップアップにつながるアドバイスをを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	12同様アトハイスや、実践者・管理者研修、外部研修、講師を招聘したり、年間を通した内部研修へ参加し、トレーニングの選択ができる環境を整えている。また、外部研修に参加した職員は、研修内容を会議で発表して共有している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会等で同業者との横のつながりを生かし、情報交換を行っている。また、他の施設の運営推進会議の書類を確認し情報の共有を行い、自施設のサービス向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に事前調査を行い(担当者会議含む)、嗜好や性格、生活環境等の情報に基づき、生活環境が変わっても安心して生活出来るように環境を整えている。コミュニケーション等のアプローチも個別に対応しご本人に安心して話せる関係づくりに努め、スタッフ間でも共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に必ず事前調査を行い(担当者会議含む)、ご家族の思いや意向をお伺いし不安なこと困ったことがあればいつでも相談できる体制を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった時点で聞き取りをしっかりと行い、GHだけでなく医療など連携を図るよう調整、連携を行っている。また、事前調査を行う中で細かい情報から、施設内でも情報の周知を行っている。(理美容等)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の得意なところを尊重し、時に職員が教えて頂きながら、お互いに必要な時に助け合える環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様参加イベント等ではご家族様からのお手紙を頂戴したり、窓越し面会や電話等で信頼関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所や人の写真等を居室に飾らせて頂いたりお電話等で関係性が途切れない様に努めている。	コロナ禍のため、以前から交流のあった幼稚園とはプレゼント交換で関係の維持をしています。現在、外出は出来ませんが訪問者との面会は窓越しにおこなっています。また、利用者の年賀状書きや、電話でのやり取りの手伝いをして、馴染みの人との関係が維持できるように支援をしています。	コロナ禍の収束とともに直接の交流が再開できることを期待しています。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	「役割」(掃除、洗濯、食器拭き、調理等)や自立支援を通し、入居者様同士が関わりあえる、支えられる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方がまだいらっしゃいません。 年賀状等。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中でご本人の行動や会話などから思いや、ご意向をお伺いするよう努めている。また、ケースカンファレンスで各職員と、ご本人本位にサービス提供が出来るよう表情、生活歴等を踏まえ検討し、実践している。	担当職員は毎月の各フロアごとのカンファレンスで利用者ごとの気づき、課題などを具体的に報告し、意見交換を行います。その内容は会議議事録として残し、周知されます。また、その中の重要事項は申し送りノートに記載し、サービス提供に漏れの無いよう、実践しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始前に必ず事前調査(アセスメント・実調)を行い、ご自宅の状況や、ケアマネジャーさん、ご家族との話し合い、生活歴、生活環境、要望、意向など確認し、把握をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今まで生活歴を踏まえて、生活の中でお一人お一人何が出来るかを望まれているかを組み取り、24時間シートを用いて心身状態の把握に努めている。ケアプラン更新時にも再アセスメントを行い、心身の状況を把握し更新している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	居室担当者を決め、毎月のカンファレンス時にそれぞれの意見やアイデアを出し合ったり、担当者会議で医療・福祉用具など多職種との連携を行い、状況に即した計画作成を行っている。	居室担当職員が家事の経験のなかった利用者を手伝いの声掛けをしたところ、こころよく引き受け、毎日の日課となりました。また、うつで見られる女性がメイクをすると明るく成る兆候から、朝一緒にメイクをし始めたところ、自発な活動がみられるようになりました。管理者と職員が話し合い、それぞれの状況に合わせた支援の工夫が見られます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の入居者様のご様子や変化を、しっかりと記録し、個人記録だけではなく、ケア方針を検討できるツールや、申し送りノートなどで情報の共有を行い検討・プラン見直しを行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	食事、急な受診、受診の送迎などニーズに対応した提案が出来るよう、ご家族、厨房など連携を取り、サービス提供を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣幼稚園とのプレゼントの交流や、近隣中学校へ自作の雑巾を寄付、近所のゴミ拾い・パトロールなど交流の形を変えて行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族協力のもと定期受診やその時に応じて必要な医療機関を受診して頂いている。一人一人主治医がおり、状態に合わせて往診して頂いたり、24時間連絡相談ができる支援をしている。	月に2回の定期往診と必要時(夜間を含む)の臨時の往診、歯科は毎週で対応しています。専門科の受診は原則家族が付き添っています。必要時の往診で変更・変化があった場合、家族に報告・連絡・相談をして適切な医療を受けられるように支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の健康面や、細かい変化を職場内の看護職へ相談・報告を行っています。また、訪問看護との連携も欠かさず、月二回の訪問時や、夜間などの相談等適宜行い、必要に応じて受診につなげるなどの支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前、入院中など医療機関と状態確認や、治療状況、退院時期等確認を行っています。また、退院時の担当者会議などで、受け入れまでの円滑な連携を行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期に関する同意書を使用し、その状況になった場合の対応の説明・了承を得ている。また、施設としてマニュアルを作成し対応をスタッフ間や関係者で周知し支援するような体制を取っている。	契約時に重度化した場合や終末期の事業所の支援について説明し、家族の意向を確認し、同意書を得ています。重度化した場合や終末期には再度確認し、同意書を得て家族、介護職員、関係者で話し合い、看取りを行っています。職員に看取りの研修を行っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの講習等緊急時の研修を行い、職員間で周知しています。また、フローチャートを使用し各職員が動けるよう情報共有しています。その他、オンコール対応も輪番制で行い、バックアップ体制も整えています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害避難訓練を年に1回消防署立ち会いのもと行っています。また、内部研修として、災害対策マニュアルを使用し夜間想定訓練や、避難場所までの移動等行っています。	コロナ禍で中止になりましたが、年1回、消防署立ち会いのもと水害避難訓練を行っていました。また、内部研修として、災害対策マニュアルを使用し、夜間想定や火災・地震訓練、避難場所までの移動に利用者も参加して行っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や今まで歩んできた人生を尊重し声のかけ方や接し方に配慮している。居室に暖簾を付けたりプライバシーに配慮した対応を行い情報漏洩の無いよう気を付けている。	一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや接し方をして、その人らしくいられるように配慮しています。職員には個人情報保護や接遇についての研修を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お風呂の準備、趣味の物をご自身で選んで頂いたり、朝の食事にその日の気分でパン食にしたり、飲み物を自身で選んで頂いたり、自己決定や思いを話しやすいような環境設定や言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活上、基本的な流れはあるが、一人一人のやりたいことを優先し、強要せずにそれぞれの時間も大切にして頂けるよう対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や起床時等自身で好きな洋服が選べるよう一緒に選んだり、日々の化粧水で肌の手入れ、お化粧品をし気分を変え楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人の食の嗜好を確認した上で時には食べたいものを一緒に作ったり、食材を選んで頂いたりしている。また、食事の盛り付け、食器洗い、後片付け、食器拭き等スタッフと一緒にやっている。	施設内に畑があり、利用者は収穫時に好きな野菜を収穫し、メニューを考え、職員と一緒に作っています。誕生日に好きなメニューを聞き一緒に作ったり、お寿司イベント、クリスマス会のケーキ、お茶会の茶菓子などの時に、テイクアウトを利用しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、バイタル等毎日記録し、推移や状態確認に使用している。1日ごとにトータルを出し、医療連携の際などにも活用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、できる方はご自身で行って頂いたり、お手伝いをして行ったりと実施している。また、週に1回訪問歯科が入っており、口腔ケア、義歯調整等状態確認を導入している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ベット上で過ごすことが多い方でも、ご本人のご要望でお手洗いにて排泄して頂いたり、チェック表から、その方の排泄間隔やサインなどでお手洗いへのお声がけで排泄が出来るよう支援している。	職員はチェック表を活用して排泄間隔やサインを把握し、トイレへの誘導や声がけを行っています。車いすの人にも適宜に声をかけ、トイレでの排泄が出来るように支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動する機会や水分量の確保を行い、ヤクルトやヨーグルト、オリゴ糖など召し上がって頂いたり、場合によっては看護師や主治医に相談を行い対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤やゆず、菖蒲等季節に応じたお湯を楽しんで頂いている。チェック表にて入浴間隔等は確認しているが、要望があればできる限り入浴出来るよう提供している。	入浴表で入浴の間隔などは把握していますが、利用者の要望やタイミングに合わせて対応しています。機能低下の人には機械浴を、長時間の離床の難しい人には入浴時間を短くしたり、シャワー浴や部分浴(足浴・手浴)に、入浴を嫌がる人には時間や日にちを変更して柔軟に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前に読書して頂いたり、居室にてテレビをご覧になったり、アロマを使用しリラックスして頂いたり、安眠に繋がるよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時には必ず、薬局と薬の用法、用量について確認し合い、内服後の症状の変化に対しても、密に連絡を取り合い相談できる環境を作っている。個人記録にも経過を記載し、主治医や看護師にも繋げている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事、料理、編み物、裁縫、日記などご本人にとって得意としてきたことを行える環境作りに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で遠出等はできていないが、屋外に作った菜園の手入れや収穫、毎日のゴミ捨てのほか、散歩や地域のパトロール等かねて、日常的な外出支援を行っている。	コロナ禍の為遠出はできず、町内を一周したり、散歩を兼ねて近隣幼稚園周りのごみ拾いやパトロールをしています。長距離の歩行が難しい人や車いすの人には施設周りの散歩や施設前の花壇、畑の手入れなどをして日常的な外出支援を行っています	コロナが収束されたら、感染状況を考慮しながら、これまで実施していた遠出の外出や外出行事(さくら見物、食事、買い物など)が再開されるのを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人でのお金の管理が難しい方が多いため、了承のもと小口管理をしている。できる時は、ご本人の買い物と一緒に支払いをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状をご家族に送ったり、ご本人様宛の電話があった場合はおつなぎしたり、ご家族の了承を得てご自宅に電話できる体制を整えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が好まれる歌や音楽を流したりリビングには季節を感じられるようその季節に合った飾りや置物を用意している。飾りつけは混乱を招かないような付け方を工夫している。	利用者が多くの時間を過ごすリビングはスペースを広く取り、窓辺から外を眺めたり、自由にくつろげるようにソファやテレビを配置しています。利用者はフロアの消毒、ごみ捨てなどリビングの飾りつけ、取り外しも職員と一緒にしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前や窓辺などにソファやイスを配置し、共用スペースと個別スペースに区別できるレイアウトにしており、笑出来たり落ち着ける居場所を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前にご家族に相談し、馴染みの物(タンス、写真、ベッド等)を持参頂き、ご本人に合わせて、できる限り安心して過ごせるように工夫している。	入居前に家族と相談し、使い慣れたタンスやベッド、馴染みの品物や思い出の写真を置いています。自分だけの空間、自分の部屋だと安心して過ごせるように工夫しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お風呂やトイレの場所が分かるよう表記している。車いすの方がお一人でもトイレまで行けるよう広さを確保している。		